

取組名	地域連携による紫尾山のブナ林保全・保護対策の推進	
署等名	北薩森林管理署	
取組を行う背景・経緯	<p>紫尾山の植生を代表するブナ林は、薩摩半島における南限とされ、冷温帯のブナが、暖帯林のカシ、シイなどと共存する貴重な生態系を有している。</p> <p>しかしながら、近年何らかの要因により枯損、倒木する箇所が散見される状況にあり、さつま町長、さつま町議会議長及びさつま町森林林業活性化促進議員連盟会長からブナ林の保全・保護等に係る要望がよせられていた。</p> <p>このことから、地域と連携して、この紫尾山のブナ林の生物多様性を守る活動に署を挙げて取り組むこととした。</p>	
実施した取組の内容、成果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 21 年 4 月 ブナ林事前調査及びプロジェクト会議(管理署)</li> <li>・ 21 年 5 月 ブナ林分布調査開始</li> <li>・ 21 年 6 月 ブナ林現地検討会(さつま町役場等 5 名参加)</li> <li>・ 21 年 9 月 ブナ分布連携調査(さつま町役場、町議会、ボランティア、署 29 名参加)</li> <li>・ 21 年 9 月～ 22 年 3 月 まとめ、ブナ林自然再生状況調査</li> </ul>	
取組体制	署プロジェクトチームを中心に、さつま町役場、さつま町議会及びボランティアで推進	
自己評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ブナ林の自然再生を着実に推進することが出来た。</li> <li>2 地域との連携で、ブナ林再生及びブナ林分布調査に取り組めた。</li> <li>3 さつま町からの評価は高く、大半の議員たちの参加を得ることが出来た。</li> </ol>	
今後の展望	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 衰退の危機にあるブナ林の自然再生を現実のものとする。</li> <li>2 地域連携による取組で、地域における国有林の存在感を高めるためにも継続した取り組みが必要である。</li> </ol>	
新聞等掲載状況		
<p>HP に掲載 北薩森林管理署 &gt; お知らせ <a href="http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/hokusatu/sub1.html">http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/hokusatu/sub1.html</a></p>		